

2010年度

科目名	心理学演習 I B		
担当教員	井上 徹		
配当	人社3	コード	25240
開期	後期	講時	火曜日5限
		単位数	2
授業テーマ	心理学研究に利用される多変量解析の実際		
目的と概要	心理検査における項目作成や、態度調査の結果分析に必要な多変量解析法を、実際のデータ分析を通して理解することを目的とします。多変量解析法について概観した後、重回帰分析、因子分析、クラスター分析、共分散構造分析、さらに数量化 I、II、III類について、統計パッケージを用いて、実際のデータを、受講生自らが分析します。それによって得られた出力結果に基づいて、それぞれの解釈のポイント、留意点を解説していきます。		
成績評価法	レポート(60%) + 各時間におけるミニレポート(40%) + 質問などを通して垣間見る、理解への意欲度も加味します。		
テキスト	授業中にプリントを配布します。		
参考書			
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
1. 多変量解析法とは何か 2. 重回帰分析 (1) 重回帰分析法の意味、調査事例 3. 重回帰分析 (2) S P S Sを用いた重回帰分析 4. 重回帰分析 (3) 結果の解釈 5. 因子分析 (1) 因子分析法の意味、調査事例 6. 因子分析 (2) S P S Sを用いた因子分析 7. 因子分析 (3) 結果の解釈 8. クラスター分析 (1) クラスター分析法の意味、調査事例 9. クラスター分析 (2) S P S Sを用いたクラスター分析 10. クラスター分析 (3) 結果の解釈 11. 共分散構造分析 (1) 共分散構造分析の意味、調査事例 12. 共分散構造分析 (2) A m o sを用いた共分散構造分析 13. 共分散構造分析 (3) 結果の解釈 14. その他の多変量解析法 数量化 I、II、III類 15. 多変量解析法についてのまとめ			